大分大学『医学文献デリバリーサービス』による地域貢献への試み

山田 哲敬*

大分大学学術情報拠点（医学図書館）

I. はじめに

大分大学学術情報拠点（医学図書館）（サービス開始時は大分大学附属図書館医学分館、以下、当館という）では、大学が進める社会貢献の一環として当館が所蔵している医学情報を積極的に提供し、地域における医学及び医療の発展に寄与するために平成20年1月より「医学文献デリバリーサービス」をスタートさせた。

サービス開始から僅か半年ではあるが、発足から現在に至るまでの経緯と現況をここに報告する。

II. 背景

近年全国的に大学の地域貢献が求められる中、他大学が新たに開始した地域へのサービス提供に関する情報を入手し、当館でもそうしたサービスに強い関心を持っていた。

また、平成16年度の国立大学法人化による運営費交付金の漸減から図書館のサービス低下が危惧されていた。そこで新サービスの提供による外部からの資金調達の可能性の検討を始めた。

III. 開始に至るまでの経緯

1. 図書館友の会構想

当時の分館長の発案により、平成17年6月の医学分館運営委員会（以下、委員会という）に、「図書館友の会（仮称）」の名称で寄付金募集と寄付者に対する医学情報の提供サービスを提案し承認を得た。

これは、大分県内に在住する医療従事者に対して医学情報を提供し寄付金を募ろうとするものであり、図書館の地域貢献と資金面での増収効果の双方を見込んだものになる予定であった。

委員会の承認を踏まえ、発足に向けて具体的準備に取りかかり、寄付金による文献（情報）提供サービスを実

施している他大学の情報を調査したが、その実施例が少なく、やや参考資料不足であったことと、医学情報提供サービスのニーズとその求められる内容を正確に把握するため、平成17年7月に県内の医療機関に対しアンケートを実施することにした。

2. アンケートとモニターサービス

アンケートの対象は「病院要覧」掲載の県内162病院（患者数20人以上の収容施設を有するもの）であり、アンケート項目と集計結果は以下のとおりである。

1) 実施した場合参加を希望するサービスについて

- ①学術雑誌・書籍の共同購入
- ②電子ジャーナルの共同契約
- ③学術資料の貸出（図1）
- ④文献複写（図2）
- ⑤情報検索（検索代行）（図3）

2) 寄付について（図4）

3) その他意見要望

アンケート結果では、約8割の医療機関が資料の貸出・複写サービスを希望しており、学内データベースによる代行検索の配信サービスについては約7割と高い需要があることが分かった。特に経費が限られる小規模病院で、医療活動に関わる情報入手を切望しているところがあった。また、電子ジャーナルの知識に乏しくシステムについて具体的に知りたいという声もあった。

このアンケートに基づき、正式サービス開始時の利用率など全体像を予想するため、モニターサービスを実施した。実施期間は第1回が平成18年1月から3月までの3ヶ月間、第2回が平成18年4月から平成19年3月までの1年間であった。

モニター対象機関は、アンケート調査の回答を得た県内58病院のうち、協力申し出のあった機関を規模別に大・中・小規模病院に分類、それぞれ同数ぐらいを抽出し、第1回モニターは9病院、第2回モニターは新たに追加した9病院を加え18病院であった。

*Tetsuyuki YAMADA : 〒879-5595 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1.
Tel.097-586-5570 Fax.097-586-5579 (2008年7月7日 受理)

サービスの申し込みは Web から行うこととし、ID とパスワードを、図書館側であらかじめ登録し、パスワードは利用者（機関）が変更可能にした。また、依頼するためのマニュアルを「図書貸出・文献複写・代行検索」別に作成して、(ID・パスワード・利用マニュアル) をセットで各病院宛に送付してモニターサービスを開始した。

モニターサービスの結果を簡単にまとめると以下のとおりである。

- ・利用機関数も依頼件数も事前アンケート調査による予想を下回った(表1)。(第2回モニターの場合の利用機関数は7, 依頼件数は1機関平均約30件/月)
- ・文献複写サービスの依頼は多かったが、それ以外のサービス依頼はほとんどなかった。

- ・特定病院からの依頼が集中し、依頼件数0の機関も多かった。

これらの結果を分析すると次のようなことが分かった。依頼件数が当初予想したより少ない状況から、日常業務を圧迫する業務量ではなく、正式サービス実施にあたっての人的対策の必要性はないと考えられた。

アンケートでは医学情報サービスの希望があったにも関わらず依頼がない機関については、病院内での個人への周知不足や事務体制上の問題が考えられる他、必要な医学情報については、学会誌やフリーデータベースを介し既に入手しているもので間に合っていることなども要因として考えられた。

3 大分大学の医学資料の貸出を行った場合、利用したいと思いますか？

図1. 医学資料の貸出

4 大分大学が所蔵する資料の複写サービスを利用したいと思いますか？

図2. 複写サービス

5 学内専用のデータベースを使い、当館員が代行して検索した結果をメールなどで配信するサービスを行った場合、利用されますか？

図3. 代行検索サービス

6 大分大学が寄付金をいただく場合、法人なら年間いくぐらいの金額が適当とお考えでしょうか？

図4. 寄付金

	第一回試行サービス結果		第二回試行サービス結果	
	(H18.1～H18.3)		(H18.4～H19.3)	
	リクエスト 機関数	リクエスト 件数	リクエスト 機関数	リクエスト 件数
図書の貸出				
(当館所蔵 の資料)	0機関	0件	1機関	1件
文献複写	2機関	当館 所蔵	5機関	当館 所蔵
		26件		23件
医中誌 代行検索	0機関	0件	1機関	1件

平成19年2月第2回委員会にて「図書館友の会(仮称)」のモニター結果と分析を報告し、その検証を踏まえた新計画案を「医学文献デリバリー制度」として提案した(図5)。同時に、新制度に関わる関連要項の制定、図書館利用規程の改正について承認を得た。

この制度は「年間5,000円以上の寄付者（個人）を対象に、申し込みに必要なライセンスを発行し、利用者の実費負担で当館及び他大学図書館所蔵の医学文献等資料の複写物を配送する。」というものであり、変更のポイントは、機関単位から個人単位に対象者を変更したこと、サービス内容を当初構想の「学術雑誌・書籍の共同購入」「電子ジャーナルの共同契約」「学術雑誌の現物貸借」「文献複写」「情報検索（代行検索）」の5種から「文献複写サービス」に特化したことの2点である。

対象者を個人にしたことについては、著作権法遵守の観点と病院機関への事務負担を回避する意図があった。

文献複写サービスへの特化については、モニターサービス期間での利用がほとんど文献複写のみであったことと、医学情報提供サービスとして直ちにサービス可能なものが諸般の事情により限定されたためであった。

平成19年10月の委員会でも正式承認された医学文献デリバリー制度の開始前にその概要について関係部局への説明も含めて打合せを行った。そこで寄付金の扱いや複写料金等の支払い方法に関して種々の問題点が浮上した。問題点の多くは個人の寄付金受入に関してであり、図書館単独で寄付金を提案することの前例がなかった上に、企業法人など団体寄付ではなく個人単位での寄付の取り扱い窓口が未整備である点、また図書館が医学情報の整備充実に使用する寄付金の業務処理を他部局の業務増大で対応することが適切かどうかなどが主なものであった。

图5

图6

しかしながら医学文献デリバリー制度の実施は、大分大学附属図書館の中期目標中期計画の19年度計画となっているため、寄付金制の導入を見送り、新サービスをスタートすることで事務局と委員会の承認を得た。また、複写料金等の支払方法の簡便化については、機関を対象としている徴収猶予制度を柔軟に運用することにより、簡便化することにした。

平成19年12月の大分大学学長定例記者会見で「医学文献デリバリーサービス」を正式名称として翌年1月よりサービスを開始することを発表した(図6)。また、新制度普及に向けパンフレットを作成し県内の主要病院に郵送配布するなど広報・PR活動に努めた。このことは各新聞でも大きく報道され、多くの問い合わせが来るなど反響があった。

そして平成20年1月、県内医療従事者に対し「医学文献デリバリーサービス」を正式に開始した。

Ⅳ. 医学文献デリバリーサービスの概要とその手続き

利用申請から文献受け取りまでの流れは次のとおりで

ある。

- ①大分大学学術情報拠点図書館／医学図書館ウェブサイト医学文献デリバリーサービスから申請書をダウンロードしてプリントアウトする。
- ②用紙に必要事項を記入して当館宛に郵送する。
- ③当館から文献複写時に必要なIDとパスワードを郵送する。
- ④当館ウェブサイト・マイライブラリーから必要な文献を申し込む(図7)。
- ⑤申し込みに基づいて複写料や送料等を計算し、申込者に通知する。
- ⑥料金のお知らせが届いたら郵便為替又は現金書留を当館宛に送る(後払いの徴収猶予制度あり)。
- ⑦当館から利用者へ複写物発送(徴収猶予制度を利用すれば、当館所蔵の資料であれば利用者の手元に届くまで2～3日、他館所蔵の資料でもおおむね一週間以内)。

※電子ジャーナルの複写はサービス対象外

The figure consists of two screenshots of a web browser displaying the 'Document Reproduction Request Form' on the website of the University of Oita Academic Information Center. The top screenshot shows the 'Login' page with fields for 'User ID' and 'Password'. The bottom screenshot shows the 'Document Reproduction Request Form' with various input fields for user information, document details, and payment information.

図7. 文献複写依頼画面

V. 現状

平成20年6月現在、業務内容の急激な変化など大きな混乱もなく、現在に至っている。2月より依頼件数は順調に伸びてはいるが(図8)、登録者が5月時点で累計85人とまだ少なく、依頼件数も当館の推測した件数を下回っている。

図8. 文献複写受付統計(平成20年1月～5月)

VI. 評価・点検

寄付金制の不採用で、当初の計画の目的をすべて盛り込むことはできなかったが、新サービスにより情報提供の対象者が地域の一般利用者から県内の医療従事者へと拡大し、当館の取り組みが従来の地域貢献を越え医療の発展をも含む社会貢献へと踏み込んだと言える。

寄付金制を除くという制度の一部変更については、大学側の体制だけでなく、当館も関係部局と事前に事務量の増大などについての細部まですり合わせをすることなどを考慮すべきであった。

VII. 今後の展望と課題

1. 寄付金制について

将来的には当初の計画通り、寄付金制を導入したい。

寄付金制を実現するためにはまず、関係部局との調整や広報活動等を通しての利用者数・件数の増加を図ることが必要である。また、寄付する側である医療従事者等の理解を得ることも必要である。

2. 広報について

パンフレットを配布するだけでなく、より細やかな広報を行い、普及活動を充実させさらに多くの医療従事者へデリバリーサービスを周知することで本サービスの利用者を増やすことが可能であろう。

今後は医師会や歯科医師会、看護協会などの機関誌に掲載依頼するなどして広く県内医療従事者への周知に努

める他、図書館ホームページでもこのサービスの利便性と意義ある社会貢献についての理解を強くPRしていく予定である。

また、県内の医療関係機関主催のセミナーなどに協力を呼びかけることも広報活動のさらなる広がりの可能性が考えられる。

3. 支払い方法について

複写料金の支払方法については、個人的都合等により、前納支払いを希望する利用者も多く、その場合複写物の発送が料金到着後にしかできず、資料の入手までに日数がかかってしまっている。今後も利用者のニーズを把握し、徴収猶予制度とプリペイドカードとの並行利用を検討する等より簡易な支払い方法導入も視野に入れて利用者の利便性の向上を図る必要がある。

VIII. おわりに

まだまだ改善の余地があるサービスなので、今後も一定の期間に評価・点検する機会を設け、利用者の声を反映し、適宜改善するなど、より良い制度の構築を目指さなければならない。

寄付金制を導入している他大学の状況やその推移、図書館を取り巻く環境やサービス業務そのものの変化、時代と共に変わる利用者のニーズに対し、今後もその最新情報を掘みつつサービス内容と形態を見直していく必要がある。

また、将来の寄付金制の実現やスムーズな業務運営のためには、大学内外の関係機関との相互理解と協力が不可欠である。大分大学の重要な役割の一つである社会貢献を支援する立場で図書館使命の共通認識を土台に、関係機関とより良い関係を築き、当館ならではの専門性を活かした進化し続ける医学図書館でありたい。

参考文献

- 1) 板谷茂. 広島大学図書館の社会貢献事業「図書館フレンドリー利用証」と「地域交流プラザ」. 大学図書館研究 2006;76:15-20.
- 2) 飯塚美子. 日本女子大学図書館友の会の活動について. 大学図書館研究 2006;77:72-7.
- 3) 医療施設政策研究会編. 病院要覧2003-2004年版. 第19版. 東京:医学書院;2003.p.360-6.
- 4) 広島大学図書館[internet]. <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/> [accessed 2007-08-20]
- 5) 浜松医科大学附属図書館[internet]. <http://www2.hama-med.ac.jp/w3a/toshokan/homepage.html> [accessed 2007-08-21]
- 6) 名古屋大学附属図書館[internet]. <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/> [accessed 2007-08-24]